

令和4年5月11日
土 木 部

世田谷区自転車活用推進計画及び自転車等の利用に関する総合計画
追補版（案）について

（付議の要旨）

令和3年7月に策定した「世田谷区自転車活用推進計画及び自転車等の利用に関する総合計画」（令和3年度～12年度）について、新たな生活様式の状況と令和3年度放置自転車実態調査の結果を踏まえ推計を行い、追補版（案）をとりまとめたので、報告する。

1 主旨

令和3年7月に策定した「世田谷区自転車活用推進計画及び自転車等の利用に関する総合計画」の5章において、各鉄道路線沿線の自転車利用環境の現状と課題を整理し、今後必要となる主な取組みを示している。

計画策定時点では、区内駐輪場利用状況等を検証した結果、コロナ禍の影響を受けた実態の把握が、令和2年度の放置自転車実態調査結果だけでは不十分であり、令和3年度の放置自転車調査結果を踏まえた上で、「新たな生活様式」の社会への浸透状況等を勘案しつつ、推計を行うこととしていた。

この度、駅周辺の自転車の乗入台数に関する推計を行い、庁内検討会及び世田谷区自転車等駐車対策協議会の意見を踏まえ、追補版(案)をとりまとめる。

2 案の内容

別紙 世田谷区自転車活用推進計画及び自転車等の利用に関する総合計画
追補版（案）

【将来の乗入台数の推計の算出】

- ・乗入台数の推計算出に影響を与える新たな生活様式の社会への浸透について
- ・課題別に通勤通学等の自転車と夕方の買い物等放置自転車に区分した推計値の算出と対応

【中間見直しの対応】

- ・令和8年度に毎年の実態調査等の結果を踏まえ、推計値等の見直しを行う

3 世田谷区自転車等駐車対策協議会での主な意見

自転車等駐車対策協議会において、自転車乗入台数推計案について審議を行い、賛同を得た。寄せられた主な意見は以下のとおり。

- ・ 将来乗入台数の推計が困難なことは同意するところである。今後の乗入台数の動向などを念頭に、中間見直しを見据えて、日常的な放置自転車対策のなかで、モニタリングしておくこと。
- ・ 通勤通学者は概ね駐輪場を利用していると調査結果から読み取ってよいと思う。
- ・ 夕方の買い物等放置自転車については、夕方や休日の駅前放置自転車の実態調査などにより原因と課題を分析し、減少に向け推進してもらいたい。
- ・ 放置自転車対策として、撤去を計画的・効果的に進めてもらいたい。

4 今後のスケジュール（予定）

令和4年

5月 公共交通機関対策等特別委員会

7月 世田谷区自転車活用推進計画及び自転車等の利用に関する総合計画
追補版の策定

別紙

世田谷区
自転車活用推進計画及び
自転車等の利用に関する総合計画
令和3年度～令和12年度
《追補版》（案）
～世田谷思いやり自転車プロジェクト～

令和4年7月
世田谷区

■ 追補版の発行について ■

区は令和3年7月に策定した「世田谷区自転車活用推進計画及び自転車等の利用に関する総合計画」の5章において、各鉄道路線沿線の自転車利用環境の現状と課題を整理し、今後必要となる主な取組みを示しています。

将来の自転車利用の傾向については、令和3年度の放置自転車実態調査の結果を踏まえた上で、駅周辺への自転車の乗り入れ台数に関する推計を行うこととしており、この度、自転車駐輪環境の整備を検討する際の基礎数値として「5.3 自転車の乗入台数の推計」を追加いたします。

追補版の構成は通学通勤等を目的とした長時間の駐輪と夕方の買い物等の放置自転車に区分して、推計を行っています。

5章 鉄道路線沿線及び駅周辺の自転車利用環境整備（追補）

5.3 自転車の乗入台数の推計

通勤通学者向けの駅周辺における駐輪場の整備は、相応の土地を必要とし、公共施設整備や土地利用などについての長期展望が必要となります。このため、毎年行う放置自転車実態調査をもとに、駅周辺への自転車乗入台数および傾向を把握し計画策定時に推計を行っています。

■通勤通学等による自転車利用等の状況について

(1) 放置自転車実態調査

区内における自転車利用の実態として、毎年10月の平日11時頃の駅周辺の放置自転車台数と駐輪場への駐輪台数（以下「実駐輪台数」という）を調査しており、令和3年度は、都内の緊急事態宣言が解除された後、令和3年10月に調査を行っています。

表1 令和3年度放置自転車実態調査の結果（隣接区分も含む）※10月の平日11時時点の調査

	駅名	放置自転車台数	実駐輪台数	乗入台数	
京王線	代田橋	11	87	98	
	明大前	9	1,060	1,069	
	下高井戸	2	228	230	
	桜上水	12	1,166	1,178	
	上北沢	125	102	227	
	八幡山	17	636	653	
	芦花公園	9	109	118	
	千歳烏山	185	4,239	4,424	
	井の頭線	池ノ上	1	52	53
新代田		2	69	71	
東松原		7	67	74	
小田急線	東北沢	0	40	40	
	下北沢	69	597	666	
	世田谷代田	2	74	76	
	梅ヶ丘	14	369	383	
	豪徳寺	4	294	298	
	経堂	57	3,349	3,406	
	千歳船橋	54	2,017	2,071	
	祖師ヶ谷大蔵	9	2,285	2,294	
	成城学園前	5	2,919	2,924	
	喜多見	17	2,605	2,622	
	田園都市線	池尻大橋	24	587	611
		三軒茶屋	72	2,430	2,502
		駒沢大学	57	751	808
		桜新町	40	1,941	1,981
用賀		27	2,790	2,817	
二子玉川		21	3,648	3,669	
大井町線		自由が丘	50	400	450
		九品仏	3	76	79
		尾山台	27	522	549
		等々力	13	276	289
目黒線	上野毛	5	307	312	
	奥沢	7	117	124	
世田谷線	西太子堂	1	0	1	
	若林	8	0	8	
	松陰神社前	6	0	6	
	世田谷	9	58	67	
	上町	13	84	97	
	宮の坂	7	0	7	
	松原	1	40	41	
計		1,002	36,391	37,393	

※ は、駅周辺の隣接市区の乗入台数を含む。
 ※ 実駐輪台数には月ぎめ、日ぎめ、時間貸しを含む

図1のように、放置自転車台数と実駐輪台数による「自転車の乗入台数」は、令和2年度においては、前年度比で約17%減少しており、新型コロナウイルスの感染拡大により不要不急な外出が自粛された影響を受けたものと推測されます。

令和3年度は、前年度比で約3%程度の増加となり、新型コロナウイルス感染症の蔓延以前の状況には戻っていません。また、今後、どの様に推移するかは予測できない状況となっています。

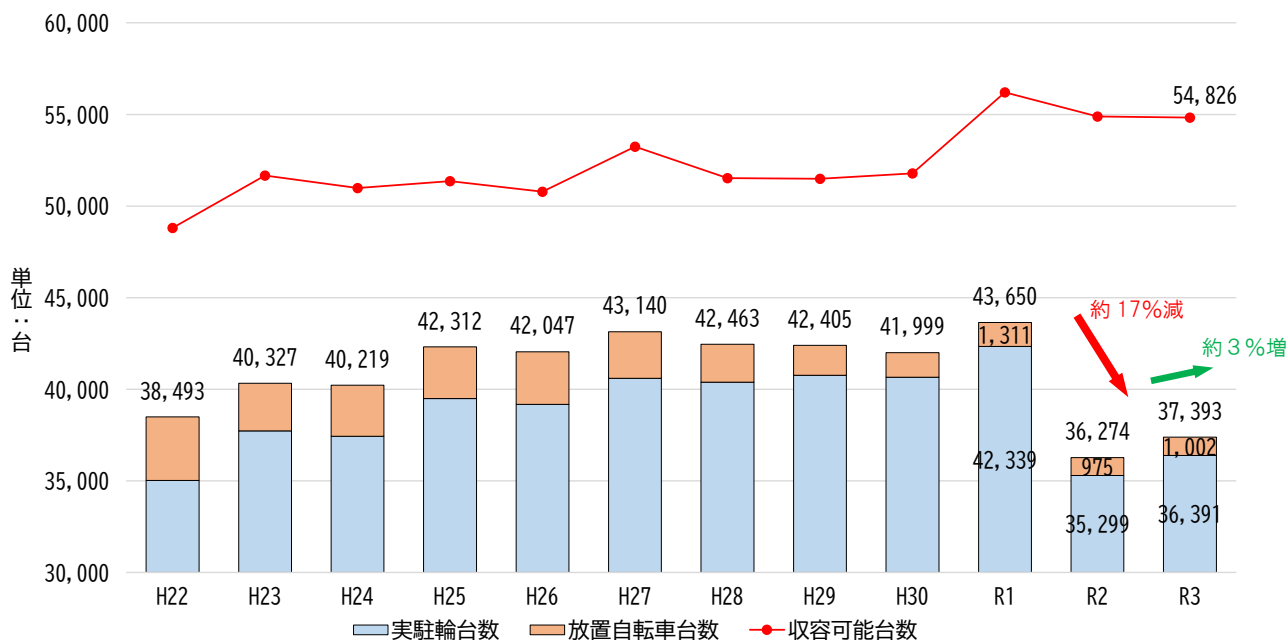


図1 自転車の乗入台数と収容可能台数の推移（隣接区含む）

(2) 区立駐輪場の利用状況

利用率の推移をみると、「月ぎめ利用」は、新型コロナウイルスの感染拡大以降、1割程度減少したままとなっています。また、「日ぎめ利用」の状況も同様であり、今後、どの程度の推移となるか予測できない状況となっています。

一方、買い物等の短時間駐輪も多く含まれる「時間ぎめ利用」については、新型コロナウイルスの感染症の蔓延以前の状況に一旦は戻りましたが、再び減少しており、今後も新たな変異株の出現に伴う感染拡大により、影響を受ける可能性を含んでいます。

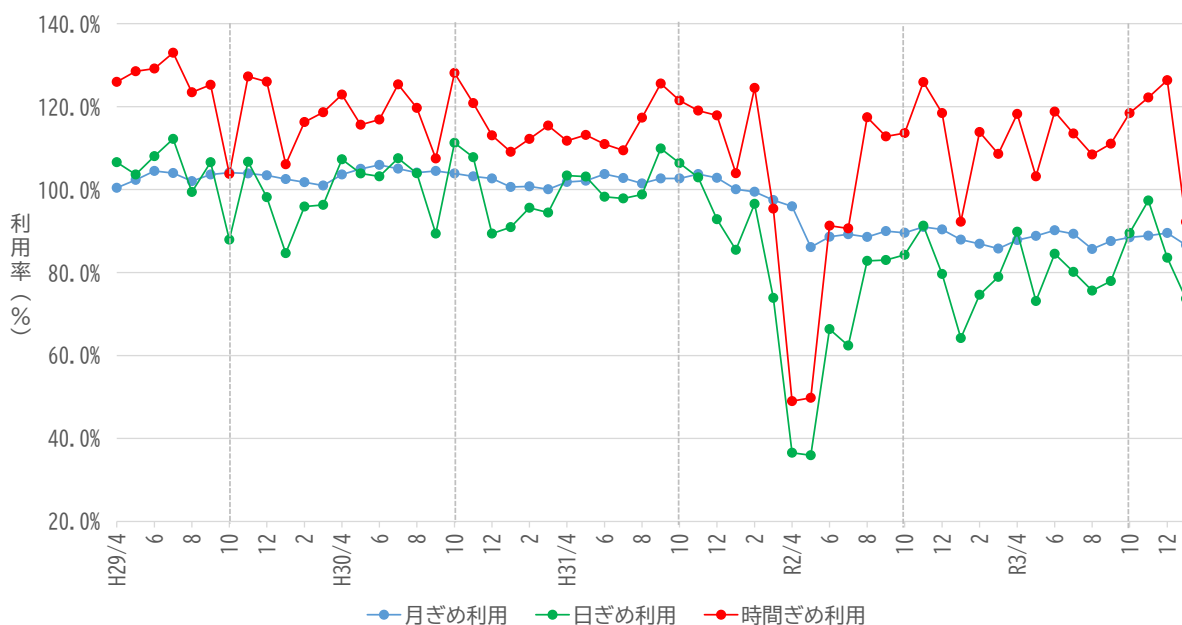


図2 区立駐輪場の利用率の推移

■ 新たな生活様式の社会への浸透について

新型コロナウイルスは、現在も社会生活に大きな影響を与えています。都内主要私鉄各社の輸送人員は、テレワークの浸透など新たな生活様式への変化、不要不急な外出の自粛等の影響により、乗降客数も大きく減少しています。

また、令和3年8月にデルタ株による緊急事態宣言が発せられ、令和4年1月からはオミクロン株による感染が急速に広がるなど、新型コロナウイルスの収束が見えていない状況下での新たな生活様式の社会への浸透は、把握できない状況にあります。

■ 将来の乗入台数の推計について

駅周辺における将来の自転車乗入台数は、通勤通学等を目的とした長時間駐輪の台数（通勤や通学等が中心となる平日11時点の乗り入れ台数）について推計を行います。

（1）通勤通学を目的とした長時間の駐輪について

令和4年2月現在、新型コロナウイルスが日本国内で広がり収束が見えない中、令和4年度以降の社会活動の状況を見極めることが難しい状況です。放置自転車実態調査や区立駐輪場の利用状況などをみても、コロナ禍の影響を受けて不確実な状況であることから、駅周辺の自転車の乗入台数について将来の予測を計算上導くことは困難です。

そのため、通勤や通学等を目的とした長時間におよぶ駐輪については、図3のように、令和8年度に予定される中間見直しまでの暫定値として、「令和3年度調査における自転車の乗入台数」を推計値として位置付け、中間見直しに際し、新たな生活様式の状況と駐輪場利用や放置自転車の状況を改めて整理し、見直しを行ないます。

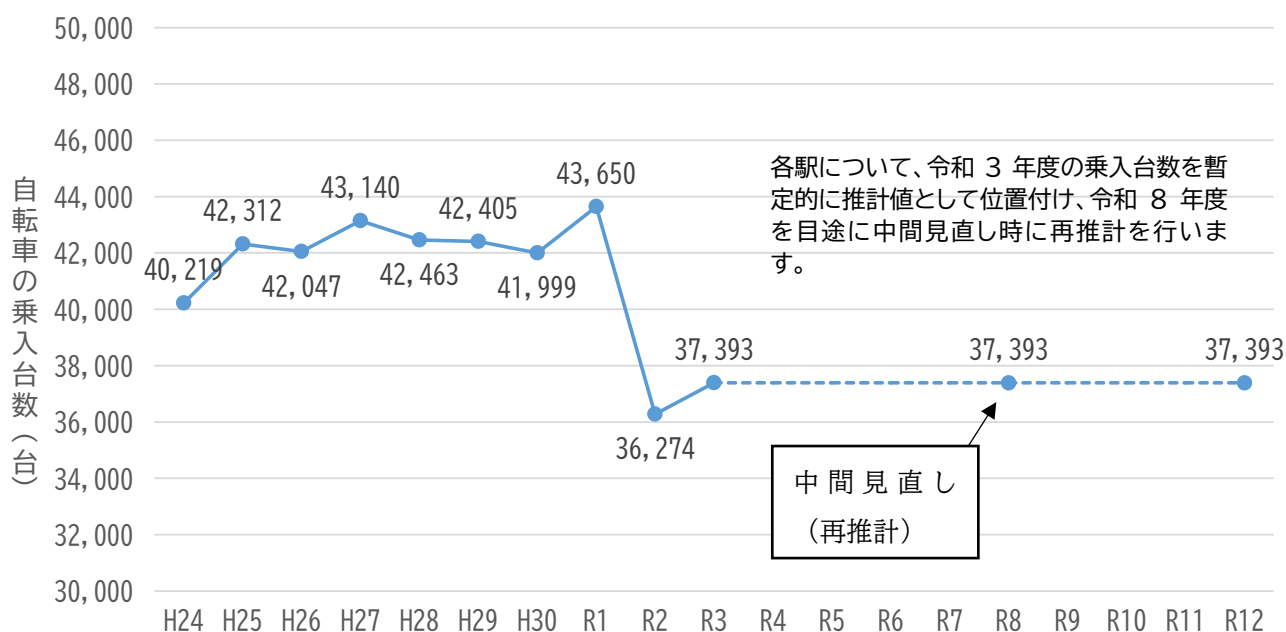


図3 将来の乗入台数の推計イメージ

表2 将来の乗入台数

京王線			小田急線			大井町線・目黒線					
駅名	駐輪場整備台数	自転車乗入台数推計値	駅名	駐輪場整備台数	自転車乗入台数推計値	駅名	駐輪場整備台数	自転車乗入台数推計値			
京王線	代田橋	219	98	小田急線	東北沢	100	40	大井町線・目黒線	自由が丘	673	450
	明大前	1,418	1,069		下北沢	878	666		九品仏	139	79
	下高井戸	553	230		世田谷代田	189	76		尾山台	526	549
	桜上水	2,051	1,178		梅ヶ丘	576	383		等々力	284	289
	上北沢	200	227		豪徳寺	597	298		上野毛	415	312
	八幡山	1,414	653		経堂	4,397	3,406		奥沢	200	124
	芦花公園	218	118		千歳船橋	3,093	2,071	世田谷線	西太子堂	0	1
	千歳烏山	6,346	4,424		祖師ヶ谷大蔵	3,371	2,294		若林	0	8
井の頭線	池ノ上	120	53		成城学園前	5,053	2,924		松陰神社前	0	6
	新代田	83	71		喜多見	3,368	2,622		世田谷	60	67
	東松原	68	74	田園都市線	池尻大橋	1,060	611		上町	183	97
			三軒茶屋		3,275	2,502	宮の坂		0	7	
			駒沢大学		892	808	松原	146	41		
			桜新町		2,688	1,981					
			用賀		3,504	2,817					
			二子玉川	6,469	3,669						
			合計			54,826	37,393				

(2) 今後の対応

民間も含めた駐輪場の収容可能台数は5万4千台分を超え、多くの駅で数の上では充足していますが、駐輪場の立地状況等により駅前には放置自転車が見られる状況です。

各駅における駐輪場の適正配置や自転車シェアリングの普及促進、大型自転車等への対応など、4章で示す施策の取り組みを進めます。今後、施策の取り組み状況を踏まえつつ、中間見直しを目途に、収容可能台数の余剰分に係る活用の検討や、民間シェアサイクルの実証実験を踏まえ、公共交通機関と自転車利用の利便性向上を含め、今後のコミュニティサイクル/レンタサイクルのあり方について検討します。

なお、駅周辺における将来の自転車乗入台数については、自転車駐輪環境の整備を検討する際の基礎数値となりますが、鉄道事業者との協議等も含め、具体的な検討にあたっては、駐輪場の立地や利用状況、令和4年度以降の放置自転車実態調査の結果など、駅周辺の自転車利用の課題と実態を十分に踏まえながら検討することとします。

■ 夕方の放置自転車について

夕方の買い物等を目的とした自転車は、駐輪場が空いたとしても、目的地付近の道路にとめてしまう傾向があります。特に、駅周辺における夕方の放置自転車対策は課題となっていることから、夕方の放置自転車の状況の把握を行います。

(1) 買い物等を目的とした夕方の放置自転車の算出について

令和元年度の夕方の買い物等を目的とした放置自転車調査において、区内15駅の放置自転車の状況を調査した結果、夕方ピークの放置自転車の台数は11時の時点の概ね2倍であり、未調査の駅については、この傾向を区内各駅に適用します。

なお、コロナ禍において、外食を控え、家庭内の食事が増える傾向にある等、夕方の買い物を主とする購買活動（自転車利用）への大きな影響は見受けられず、商店街への移動手段も変わらないと推測されます。しかしながら、令和3年度の11時台の実態調査では、放置自転車台数が大きく減っています。このことから、新型コロナウイルスの影響のなかった令和元年度の調査結果を利用し、目安値を算出します。

表3 夕方の放置自転車台数（目安値）

駅名		夕方放置 自転車 目安値	駅名		夕方放置 自転車 目安値	駅名		夕方放置 自転車 目安値	
京 王 線	代田橋	50	小 田 急 線	東北沢	10	大 井 町 線 ・ 目 黒 線	自由が丘	90	
	明大前	50		下北沢	550		九品仏	10	
	下高井戸	110		世田谷代田	0		尾山台	90	
	桜上水	50		梅ヶ丘	130		等々力	40	
	上北沢	70		豪徳寺	40		上野毛	30	
	八幡山	50		経堂	70		奥沢	70	
	芦花公園	20		千歳船橋	100		世 田 谷 線	西太子堂	—
	千歳烏山	570		祖師ヶ谷大蔵	20			若林	20
井 の 頭 線	池ノ上	10		成城学園前	20	松陰神社前		10	
	新代田	10		喜多見	100	世田谷		20	
	東松原	0	田 園 都 市 線	池尻大橋	40	上町		30	
		三軒茶屋		450	宮の坂	10			
		駒沢大学		120	松原	—			
		桜新町		130					
		用賀		200					
		二子玉川	70						

※なお、下北沢については、放置自転車台数と実駐輪台数の合計が、平日よりも休日の方が多いため、令和3年10月における休日夕方の実数を使用します。

(2) 今後の対応

各駅の自転車利用の特性や駐輪場の立地状況等も踏まえながら、大規模店舗等附置義務駐輪場の整備誘導、多様な手法を用いた放置自転車防止への取り組みなども含め、4章で示す施策の取り組みを進めます。

■ 中間見直しにむけて

引き続き、夕方の放置自転車の状況を含む自転車利用の実態、鉄道の乗降客数の推移、コロナ禍における新たな生活様式の定着及び通勤時の事業所までの自転車利用の状況、シェアサイクルの普及状況等に注視しながら、令和8年度に予定する「世田谷区自転車活用推進計画及び自転車等の利用に関する総合計画」の中間見直し時において、改めて将来の自転車乗入台数を推計し、4章の4.4(2)計画の見直しの考え方に沿って施策・計画の見直しを行ってまいります。



世田谷区自転車活用推進計画及び自転車等の利用に関する総合計画
令和3年度～令和12年度【追補版】
～世田谷思いやり自転車プロジェクト～

編集・発行：世田谷区土木部交通安全自転車課

〒158-0094 東京都世田谷区玉川1-20-1

TEL. 03-6432-7966 FAX. 03-6432-7996

<https://www.city.setagaya.lg.jp/>

発行日：令和4年7月